

中野区教育委員会会議録

令和2年第3回臨時会

令和2年7月17日

中野区教育委員会

令和2年第3回中野区教育委員会臨時会

○日時

令和2年7月17日(金曜日)

開会 午前10時00分

閉会 午前11時48分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 田中 英一

教育委員会委員 小林 福太郎

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 渡邊 仁

○出席職員

指導室長 宮崎 宏明

○書記

教育委員会係長 金田 英司

教育委員会係 香月 俊介

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 小林 福太郎

○傍聴者数

0人

○議事日程

1 協議事項

(1) 令和3年度使用教科用図書の採択について（指導室）

○議事経過

午前 10 時 00 分開会

入野教育長

おはようございます。

定足数に達しましたので、教育委員会第 3 回臨時会を開会いたします。

なお、新型コロナウイルス感染症がまだまだ発生している状況であり、会議に出席する事務局職員を、今回も極力減らすなどの感染予防を行ってまいります。

本日の会議録署名委員は、小林委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりでございます。

ここでお諮りいたします。

本日の協議事項「令和 3 年度使用教科用図書の採択について」は、採択過程における審議の公正を確保するため、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第 10 条第 1 項に基づき、非公開の取扱いとなっておりますので、本日の教育委員会につきましても、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項のただし書により、非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

入野教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定いたしました。

（以下、非公開）

（令和 2 年第 21 回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開）

<協議事項>

入野教育長

それでは日程に入ります。

前回に引き続き、令和 3 年度使用教科用図書の採択についての協議を行います。

協議の進行につきましては、前回と同様の方法により行いたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

また、前回審議を行った国語から社会の公民までについて、欠席された伊藤委員の意見を伺い、改めて協議を行い、採択候補を決定し、その後、引き続き数学から順次協議を行っていくことといたします。よろしくをお願いいたします。

それでは国語についての協議をいたします。

伊藤委員からご意見をお願いいたします。

伊藤委員

国語につきましては、各社ともいろいろな教材が工夫されていたと思います。

特に注目したのは、東京書籍、三省堂、光村図書だったのですが、東京書籍は、子どもに親しみやすい部分がある一方で、解説を読むと、少し難しいのかなと感じました。

三省堂は、言葉の扱い方とか、やはりわかりやすくおもしろいなと思ったのですが、文章、文学的な教材を読むということについては、ほかの教科書のほうが優れた部分もあるのかなと思いましたが、全体にきれいで見やすいと思いました。

光村図書は、やはり全体に国語の美しさというか、挿絵とかそういったものも美しいですし、なおかつ実用性といいますか、「情報を整理する」とか、「聞き取る」とか、「プレゼンテーション」ですとか、「書き留める」とか、そういう言葉を現実的にどう使っていくのかということについても、大変丁寧に説明があって、全体にわかりやすいのではないかなと思いました。また、読むとか聞くとか話すとか書くとか、そういったことについてのバランスもよくて、活動も多いなと思いましたし、古典などの導入も、各社工夫をされていたのですが、そういったところでもわかりやすさがあるのではないかなと思ひまして、総合すると光村図書が優れているのかなと思いました。

入野教育長

ほかに各委員から、昨日に引き続き、ご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

昨日の各委員のご意見と、今の伊藤委員のご意見を集約いたしますと、全員光村図書という意見になっておりますけれども、国語については光村図書を採択候補とすることにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

それでは、ご異議がございませんので、国語については光村図書を採択候補とすることに決定いたしました。

続きまして、書写について協議を続けたいと思います。

伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

書写も各社それぞれ工夫がされていて、どの教科書もいい面があるなと思いました。

例えば三省堂は、毛筆と硬筆が別になって、両方きちっと学べるようになっていたりとか、光村図書も、半紙と同じ大きさのお手本があったり、それぞれ工夫されていたと思います。

ただ、教育出版のものが、書くときに見やすいように思います。お手本が、左右の配置を工夫されていたりとか、結構解説が詳しいです。毛筆の扱い方とか、筆順とか、そういった基礎基本みたいなことが丁寧に繰り返し書いてあったり、それでいて子どもが親しみを持つような写真などの資料も多くて、いろんな切り口から子どもが興味を持てるのかなと思いましたし、興味を持って見たときに、説明がある。そして説明が見やすく、グラフィカルに書かれていたりするので、子どもにとっては学びやすいのではないかなと思いました。

以上です。

入野教育長

ほかに、各委員から昨日に引き続き、付け加えることはございますでしょうか。よろしいでしょうか。

昨日のご意見と、今の伊藤委員のご意見を合わせますと、各委員とも教育出版がよいという意見ですけれども、書写については教育出版でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りいたします。ただいまの協議の結果、書写については教育出版を採択候補とすることにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、書写については教育出版を採択候補とすることに決定いたしました。

続きまして、地理的分野についての協議を行います。

伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

地理は、例えば教育出版はレイアウトがわかりやすく、見やすいなと思いましたし、東京書籍はSDGs、持続可能な社会というテーマを取り上げていて、工夫がされていて、自分で探求していくという点で問題意識を喚起したりすることについて、工夫がされているように思ったのですが、若干説明が難しいかなとも思いました。そういうふうに見ていきますと、帝国書院は写真が大変美しく、また地図が教科書の中に引用されていますけれども、そういったものも大変見やすく、学習の課題も「こういう地域にはどういう特色が見

られるのだろうか」という形で投げかけられて、その地域の情報が見開きでわかりやすくまとまっています。そういったことを総合しますと、各社優れていて、決めがたい部分があるのですけれども、帝国書院がよいのかなと思いました。

学習課題の投げかけについては、東京書籍も投げかけがきちっとあって、グラフも見やすいのですが、引用されている地図が項目によって分かれていたりする。子どもによっては、いろんな情報が統合的に示されているというものに比べると、自分で統合しなければいけない量が少し多過ぎてしまって、難しいのかなと思いましたので、よりコンパクトに要点がわかりやすく、なおかつ写真などでイメージも広げやすい帝国書院はよいのかなと思いました。

以上です。

入野教育長

ほかに各委員からご発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

地理については、東京書籍と帝国書院が出されていたと思います。全体的に、地図と地理は同じ会社がいいのではないかというご意見もありましたが、帝国書院という意見が強いようでございます。地理的分野については、帝国書院でよろしいでしょうか。

それではお諮りをいたします。

ただいままでの協議の結果、地理的分野については帝国書院を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、地理的分野については帝国書院を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは続きまして、地図についての協議の続きを行いたいと思います。

伊藤委員、地図でお願いいたします。

伊藤委員

地図は2社でありましたけれども、比較をしますと、色の使い方ですとか、資料の部分の見やすさですとか、総合的に考えると、帝国書院のものがわかりやすいのかなと思いました。

地図なので、書いてあることがそんなに違うということではないのですが、活字のはっきりしている具合ですとか、土地の高低のあらわし方などがより鮮明で、わかりや

すいのではないかなと思います。

また、地図をメインにしながらも、資料は資料できちっと載っています。東京書籍も資料が多いのですけれども、やはり地図帳なので、メインの地図がはっきりわかりやすいというものがよいのではないかなと思いましたので、帝国書院がよいのではないかなと思いました。

以上です。

入野教育長

各委員から、昨日に加えてお話はありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは伊藤委員の今のご意見も含めて、全体的に帝国書院というご意見が強いようございしますが、地図については帝国書院でよろしいでしょうか。

ではお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、地図については帝国書院を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、地図については帝国書院を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは次に、歴史的分野についての協議を続けてまいります。

伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

歴史的分野は、教科書の種類、出版社が多く、それぞれに特徴がありました。

特に印象に残ったところが幾つかあるのですが、例えば帝国書院はイラストがバーンと出ていて、各時代ごとのイラストが、同じような種類のイラストでつないでいくということがありました。ただ、イラストがどうなのか、それだけでわかるのか、どうかなということを感じました。

そして、日本文教出版もバランスがよかったと思います。また東京書籍は意味を考えさせるような工夫とか、考えさせるということで、投げかけがいろいろあって、各ページの下のところ「チェック」とか「トライ」という形で、こういうことを説明してみましようとか、本文から抜き出しましようとか、そういう活動がついていて、自習ということを考えるという面もあるのかなとは思いましたが、私としては教育出版と山川出版が大変おもしろ

いと思いました。

教育出版は、各年代に非常にキャッチーなといいますか、わかりやすいタイトルをつけていまして、例えば元禄文化だったら、「花開く町人文化」とか、江戸時代の身分制度だと、「身分ごとに異なる暮らし」とか、どれも本当によくできている。子どもたちにとって見出しというのは心に残ると思うのですが、その時代を学ぶことの意味みたいなものが、とてもコンパクトに表現されているのが、とても心に残りました。子どもにとってただの史実ということではなくて、例えばヨーロッパの大航海だったら、「太陽の沈まない国」というタイトルがついていて、そういうことでイメージが広がるというか、その時代のことを知ることの意味とか、その時代がどのような時代であったのかということイメージしやすくなっているのではないかなと思いました。

山川出版は、資料が大変美しく、見やすいです。そして、「日本と世界」というサブタイトルも書いてあるのですが、そのサブタイトルのおり、特に日本の歴史とともに、世界の歴史。多分、世界がどう動いてきたのか、ほかの国がこうだったよということではなくて、日本も含めて世界がどうだったかというような、そういう視点も含めて学べる教科書だと思いました。将来大人になって思い出したときに、あるいはこれから大人になってグローバルな社会で生きていくときに、世界の中の一つの国として、世界とともに歩んできた日本というような視点を学ぶには、とてもよくできているのではないかなと思いました。

ただ、山川出版の教科書は若干フォントが小さくて、子どもたちの教科書への意見に、「あまり字が多いと困る」というような意見もありまして、そして、ほかの教科書は比較的「です・ます調」を基調としているものが多いようですが、山川出版は「です・ます」ではないので、その分情報も凝縮されています。活字も小さくてなおかつ情報が凝縮されているので、絵を見ているだけでもわかりやすいとは思うのですが、これを、読むことが苦手なお子さんが文字を読んでしっかり理解するとなると、残念ながら難しさがあるのかなと思いました。

そのように考えますと、教育出版のものは、先ほどお話ししたような、その時代を非常によくあらわしているタイトルもあり、例えば「花開く町人文化」でしたら、「どういった文化が生まれたのか考えてみましょう」という形の投げかけもありますし、「そのころの暮らしから現在も受け継がれているものを挙げてみよう」ですとか、自分のイメージを膨らませて、今の自分との関係を考えながら歴史を学ぶこともできます。字も細か過ぎませんし、全体のバランスを考えて教育出版というのはよいのかなと思いました。

以上です。

入野教育長

昨日のご意見と、今の伊藤委員の意見を合わせますと、教育出版、東京書籍、山川出版というご意見が出ているかなと思います。

私は昨日は、すべての社への意見を出して終わっておりますので、付け加えて意見を言わせていただきたいと思います。

昨日も学び方がわかりやすく丁寧なものと、内容が豊富であり読み応えがあるものに今回の教科書は分けられるという印象をお話をしたところでございます。学び方がわかりやすくということで、東京書籍と教育出版を挙げましたが、教育出版のほうは、都の調査データを見ますと、東京に関する歴史的事象が東京書籍に続き多いことですか、バランスがよくて、今の伊藤委員のお話にもありましたけれども、見出しは生徒の興味を引くし、その学習の中身がずっと入っていきやすいものになっています。

例えば私のほうは世界史の内容でお話をすると、「近代の世界の確立とアジア」というところでは、「王は君臨すれども統治はせず」ということから、議会政治の始まりを学ぶという、こういう見出しについては非常によい。歴史の学習は好きな生徒と、嫌いな生徒と分かれやすい教科だと思えますけれども、非常に子どもたちの興味を引くかなと思えました。

内容が豊富で読み応えがあるということと言いますと、やはり歴史上の人物、子どもたちの意見にもありましたけれども、人物がたくさん取り上げられているといいという意見もありましたので、そういう面では、取り上げられる歴史上の人物が多い育鵬社が秀でていかなとは思いました。日本文教出版に続いてページ数も多いですので、取り上げられている人物が多いのが育鵬社かなと思います。

ほかの委員から、特に付け加えてのご発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ということだと、先ほども申し上げましたように、委員方のご意見では、教育出版、東京書籍、山川出版という順でご意見が多いようでしたが、その中で、比較的意見が強かった教育出版ということよろしいでしょうか。

ここでお諮りいたします。

ただいまの協議の結果、歴史的分野については、教育出版を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、歴史的分野につきましては教育出版を採択候補とすることに決定いたしました。

休憩をいたします。

午前 10 時 25 分休憩

午前 10 時 26 分再開

入野教育長

それでは会議を再開いたします。

次に、公民的分野について協議を続けてまいります。

伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

公民も出版社が多かったのですけれども、今回私のほうで意識した点としては、通常の授業での使いやすさ、わかりやすさということに加えて、もし、また今年のようなオンライン授業であるとか、何か違った形の学びが要請された場合の対応ということも、全教科について注目していた点です。

そういう点で、今回はやはりデジタル教材ですとか、自習的なことにも配慮があるというものを取り上げたほうがいいのではないかなと思いました。例えば自由社とか育鵬社もそれぞれ特徴があったのですけれども、デジタルコンテンツ、そういったものがないということですか、23区についての記述、特別区の記述がなかったりですとかがあったので、ほかの4社をまずは候補にして、細かく検討してみました。

公民というのは、どういうふうに学ぶかということが比較的難しいのかなと思います。また、消費者問題とかのように、家庭科ですとか、ほかの教科とのオーバーラップということもあります。なかなか学ぶことについて、子どもたちにとっては意外と難しいのかなと思っています。

その中で、例えば日本文教出版は、漫画が多かったり、シンキングツールという形で、自分で考えるということについての工夫がなされていたりします。マップにしてみるなど、考えてみようというときの、考えを整理するやり方も出ていて、工夫がされていました。

帝国書院は、今回公民につきましても、イラストや写真が多く出ていて、そういう点ではわかりやすいのかなとは思ったのですが、意見の整理、どうやって意見を、自分の考えを整理するときにはどんな方法が使えるかについての説明は、教育出版と同じものが取り上げら

れてはいるのですけれども、ちょっと難しいのかなと。実際にどういうふうに応用していくのかということについて、子どもが見たときに、わかりやすくはないのかなと思ひまして、その点が残念かなと思ひました。

そうなりますと、東京書籍と教育出版になるのですけれども、今回教育出版は、先ほどの歴史でも申しましたが、大変見出しがわかりやすく、例えば平等権も、「差別をしない、させない」、「ともに生きる社会の実現」とか、意味合いがはっきりとわかるような、わかりやすい見出しが書いてあって、「そういう社会を実現するにはどうしたらいいだろうか」という、わかりやすい言葉で子どもたちに考えさせるような学習課題がついていました。さらにそのことについて、事例として、困難な状況にあった方々の実際の言葉とか、人生とか、そういったことが具体的に挙げられています。学習のポイントがあって、考えるべき内容があって、そのための事項がまとまっていて、さらにそれを深めるような資料があるという点で、よくできているなと思ひました。

東京書籍もわかりやすいですし、子どもの実際の学校生活、例えば部活動の中でのリーダーシップとか、話し合いとか、部活のトラブルとか、現在の自分たちの学校生活の決まりとか、自分たちの学校生活と比べて考えてみようという導入があったりして、大変工夫が凝らされている。ただ、ちょっと残念だったのが、「何々ちゃんのことが好き」とか「嫌い」とかという、いろいろな状況の中で生きている、そこを整理できずにあがいている子どもたちにとっては、そうした自分の置かれている複雑で、自分でも言葉にできないような状況を、突然、普遍的なというか、社会の中でのルールのあり方といったとても抽象的なことをもって結びつけて考えろと言われても、ちょっと戸惑ってしまうというか、逆に絵空事みたいになってしまうのではないかなという心配があります。そうであるならば、もう少し無理のない、子どもたちの、そういった自分の生活の難しさを直撃するのではなくて、もう少し興味を喚起して、自分は、まだまだ直接には関わらないかもしれないけれども、でも中学生の立場から考えたら、世の中もう少しこうしてもいいかもとかいう、中学生らしい発想を引き出すという点では、東京書籍よりも今回は教育出版のほうが優れているのではないかなと思ひました。

以上の理由より、各社捨てがたいところがあるのですけれども、教育出版がよいかなと思ひました。

以上です。

入野教育長

ほかに各委員から、昨日に引き続き付け加えることはございますでしょうか。

では私のほうから。昨日は私は東京書籍、教育出版、育鵬社についてお話をさせていただきました。

今、伊藤委員のお話にもありましたが、私は東京書籍は昨日、「みんなでチャレンジ」とか、まとめの活動とか、「もっと知りたい公民」とかということが生徒に身近なものでいいのではないかというお話をいたしました。教育出版につきましても、2点のことでお話を今日も付け加えさせていただきます。

一つは、見出しというか、そういうものが子どもたちの学習意欲にとって非常にいいかなということがございます。昨日も若干触れましたが、教科書にも「ともに生きる」という教科書の題がついていまして、それがよいかということと、230 ページのところにあるのを見ますと、「私の提案『自分を変える、社会を変える』」という見出しで、学習課題が「私の提案『自分を変える、社会を変える』を実際に変えていくためにはどんなふうにしていったらいいだろうか」となっているということが、子どもたちが非常に受け取りやすいのではないかということ。

2点目は18歳の選挙権のこともあるのですが、私たちの政治という部分の分量が、都の調査結果で40%以上、教科書の中を占めているということがよいと思うこと。同じように40%近く占めているのが育鵬社です。昨日小林委員からお話がありました、「責任と義務」の記述が多くて、「自由と権利」とのバランスがいいということは、私もそのように思いましたし、基礎・基本がわかりやすいということを付け加えますと、制度や仕組みの名称なども多く記述されておりまして、基本的な事項の習得にはよいのではないかなと思います。ただ、デジタルコンテンツがないのがやはりこれからの子どもたちが学んでいく上では、難しい問題かなと思っております。

それでは、伊藤委員のご意見も加え、東京書籍、教育出版ということでご意見が多かったように思います。その中でも、公民的分野については教育出版が若干ご意見が強いようでございますけれども、いかがでしょうか。

それではここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、公民的分野については教育出版を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、公民的分野については、教育出版を採択候補とすることに決定いたしました。

次に数学についての協議を行います。

各委員から順にご意見をいただきたいと思います。

まず、渡邊委員からお願いいたします。

渡邊委員

数学の教科書についての主な着眼点としては、自宅学習のしやすさとか、自己学習のしやすさという点も今回は考慮に入れさせていただきました。

そういった意味では、自宅学習の進め方が非常にやりやすいのではないかなと思ったのは、東京書籍と大日本図書かなと感じました。また、問題数を都の調査研究資料の中で見させていただくと、東京書籍は若干少ない感じがします。多少のばらつきはあるのですが、どの教科書も大体同じような量です。この量だけで問題を言うのはいかがかなという感じでした。

また、分冊が数研出版にありまして、啓林館は、表からは「みんなで学ぼう編」、裏からは「自分から学ぼう編」という構成。こういったのは、好みがあると思いますが、実際は一つのほうがいいのではないかなと、個人的な意見ですが。そしてその中で、問題の難易度というところについて確認をしたところ、難易度については、私自身、実際なかなか判断しきれるところがありますので、ほかの資料の中からご意見を見ていると、東京書籍とか学校図書なんかは難易度が結構適切であるというご意見が多かったように感じます。

そういったところから判断しまして、私自身は東京書籍、大日本図書が候補にいいのではないかと感じておりました。

最後に、決め手になるかわからないですが、デジタルコンテンツについて、比較する対象がなかなかなかったのですが、少し見たところ、東京書籍のデジタルコンテンツが数学に関しては、教科書本体がなくても、その中でやっていけるような配慮がしてある。そういった意味で、東京書籍の教科書がなかなかこれからの教科書によいのではないかなと感じました。

東京書籍、大日本図書が候補ですが、その中で東京書籍が私としては推薦できるかなと思っております。

以上です。

入野教育長

次に伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

数学もとても会社の数が多かったのですけれども、注目した点としては、数学は苦手な子と得意な子がはっきりしていると思うので、どの子にとっても見やすいというか、レイアウトの見やすさ、文字や色彩のわかりやすさということもとても重要なのではないかなと思ひまして、問題の演習は問題集を使っている学校が多いようにお聞きしていますので、私としましては、問題の多さというよりは、見やすさと説明のわかりやすさということを中心に考えました。

特に優れているなど思ひたのが東京書籍、学校図書、啓林館だったのですけれども、学校図書は、解説が詳しくて、丁寧なクエスチョンが書かれていて、割と平易に書かれていますので、ポイントがつかみやすいということがあるのかなと思ひました。また、写真があったり、割とやさしく説明をしている部分が多いので、自習ということではよいかと思ひました。

ただ、啓林館を見ますと、同じようにシンプルなのですが、よく見ますと解説などになかなか工夫が凝らされていまして、「ひろげよう」という形で、関心を喚起するようなクエスチョンがあったり、立体図から展開図に開いていくような途中のアニメーションというか動画というか、それがデジタルコンテンツでついていたたり、そういった工夫もあったり、よく見ていると、説明のおもしろさ、数学のおもしろさを発見できるような工夫が多い。図形の学習でしたら、おりがみを使いながら、どういうふうに数学的な考え方と身近な体験を整理していけるのかというもの。比の学習ではお料理とか、様々なことが出ていて、そういう身近な活動を数学というものの考え方をを用いることで、どんな利点があるのか。数学ってこんなふうに考えるから普段気づかなかったことが整理されておもしろいというような、数学的な考え方のおもしろさが伝わってくるのは啓林館なのかなと思ひました。

東京書籍は、非常にレイアウトが工夫をされていて、美しいです。とても見やすくて、1ページに情報がぱっと入っているのので、子どもたちは、授業を聞いていても、今どこをやっているかわからなくなってしまうたりということがよくあると思うのですが、クエスチョンはクエスチョン、例は例という形で、非常に構造化されて、色分けされて、またそれもパステルトーンでとても見やすい形になっているので、その子どもが、授業中も自習のときも、見やすくわかりやすいのではないかなと思ひました。

また、私は、自分の専門にも近い統計的なところが今回新しく入ってきた部分というこ

とで、そういった部分にも注目して各社比較検討したのですが、東京書籍の説明は非常に大事な点を捉えていまして、各社同じようなことを取り上げているのですが、例えば「箱ひげ図」について、どうして「箱ひげ図」が大事で、それをどうやって用いればいいのかということが本当によくわかるように書かれていて、同じようなことに思えるのですけれども、やはり「ああ、そういうことだったのか」とわかるような工夫がされているということで、東京書籍はとても優れていると思いました。

ですので見やすさ、イラストもかわいくて、数学の無機的な感じがあまりないので、入りやすさ、あとポイントについてすごく大事な点をきちっと言っている。もう一つ、先ほど各章のタイトルということを社会科では申し上げましたが、今回、科目全部に言えることとして、「アクティブラーニング」があります。自分たちで積極的にそのことを学ぶことの意味や、どういうふう to それを活用していくのかを学ぶことが今回の学習指導要領改訂の大きな点だと思うのですが、東京書籍は数学において、例えば「比例と反比例」の章でしたら、「数量の関係を調べて、問題を解決しよう」ですとか、社会科における教育出版のように、その事項を学ぶことの意味ですとか、それによって自分たちの生活にどういうよい点があるのかということがはっきり書かれています。そういった点も、数学が苦手な子にとっても入りやすいおもしろさがあるのではないかなと思ひまして、今回数学は東京書籍がとても優れているように思ひました。

以上です。

入野教育長

次に小林委員、お願いいたします。

小林委員

数学については、教科の目標として、大きくは知識及び技能では、いわゆる数的な処理を的確に進めていけるかということが一つの大きな目標になっていますが、今の教育の流れからすると、総合的、発展的に考察する力。いわゆる思考力、判断力、表現力がどれだけ培われるかという、そういったところが非常に重要ではないかと思ひます。

先ほどより2人の委員からも問題数のことが出ておりました。東京都の調査研究資料をみますと、確かに東京書籍は少なく、そしてほかの会社とかなりの差があるのですけれども、現実には、私はこの場合には、むしろ数を絞った形で確実に学習をさせるということも大事ではないかと思ひます。限られた時間の中で、教科書をどう活用するかということをお考えたときに、むしろ数が少ないほうが適切ではないかと思ひ判断をいたしました。

さらに、選定調査委員会の報告にもありますけれども、東京書籍の巻末の扱いが非常に子どもたちの思考力や判断力、表現力を高めていく上で有効だと。よく工夫されているかなと思いました。

今お話ししたとおり、幾つかバランスのよい教科書、例えば東京書籍、それから大日本図書、あと啓林館、こういったところを中心に、さらに検討を深めましたけれども、バランスのよさでは東京書籍が勝っている。それから、少し個別のことについて言いますと、数学の場合には習熟度別少人数指導を進めておりますので、これに対応しているということは東京書籍、それから学校図書、そして数研出版、こういったところが強いという調査結果も出ております。こういったことを考えても学校現場、特に東京の場合、中野区の場合、非常に有効に活用できるのではないかと思います。

数学ではありますけれども、都の資料には取り扱っている内容に関して、例えば防災や自然災害の扱いとか、それからオリンピック・パラリンピックとの関連を図った教材の配置の仕方というのが示されています。それを見ると、大日本図書が比較的こういったところを手厚く扱っています。大日本図書も先ほど申し上げた思考力や表現力、判断力を培っていく上では工夫された教科書になっていると思います。

しかしながら、全体を見るとやはり東京書籍、次いで大日本図書というところが、紙面の見やすさとか、総合的な部分で勝っているのかなという結論に達しました。

以上です。

入野教育長

次に田中委員、お願いいたします。

田中委員

私は数学については、学習指導要領の改訂の趣旨にもある実生活と数学のつながりという視点から比べてみましたけれども、そういった視点では東京書籍、大日本図書、啓林館が記載に工夫が見られて、生徒が数学の実用性を感じやすいのではないかと感じました。

啓林館は2部構成が生徒にとってどうなのかなという危惧はありましたが、教科書の冒頭に問題解決型の学習の流れが非常に具体的に丁寧を示されていて、ノートの書き方などもわかりやすいような気がしました。こういった意味では、生徒が取り扱える部分なのかなと思いました。また、調査研究報告でも、問題が幅広く網羅されている点がよかったと指摘されていますが、生徒意見でも問題数が多いといいという意見もあり、こういった点では啓林館が評価できる部分かなと思いました。

大日本図書は、例えば「正の数、負の数」の学習で、みんなの記録を自分の記録と比べようということで、競争している写真があるなど、何を学ぶのかということがとてもわかりやすいつくりで、いいのかなと感じました。

それから東京書籍はやはり、今お話しした「正の数、負の数」を見ると、生徒の背の高さで比んでいるのですけれども、どちらが生徒にわかりやすいのかというと、大日本図書のほうがわかりやすいのかなと感じました。東京書籍はそこに、「問題をつかむ」、それから「見立てを立てる」、「解決する」といった過程が、ページの横のほうに縦書きであり、生徒が何をやらなくてはいけないのかということがわかりやすいと感じました。

数学はあまり数字がいっぱい並んだりすると、敬遠しがちのような気もしますので、見やすさという点は非常に大事なかなと思います。そういった点では東京書籍が、先ほどからお話もありました、色合いも含めて、全体にゆとりがあって、生徒が見やすいと感じるのではないかなという点も含めて、この3社の中から、特に東京書籍を推薦したいと感じました。

以上です。

入野教育長

最後に私から意見を申し上げます。

選定調査委員会で書かれているそれぞれの内容的特徴を私も確認させていただきました。

東京書籍は先ほど来出ているように、生活とつながった数学の活用が記載されているというのが特徴的に書かれておりましたけれど、まさにそうだなという印象を持ちましたし、大日本図書に関しましては、学習範囲を超えてチャレンジできる問題があって、数学の得意な生徒にもいいのではないかなということですか、学校図書についてはプログラミングの取扱いがあること、教育出版については、日本文化を意識しているような、平面図で麻の葉の模様を取り上げていたり、「隠し算」の取扱いがあるということが特徴的だと書かれておまして、確認をしたところでございます。それぞれに興味深かったです。

啓林館につきましては、やはりお話にありました、幅広い問題の取扱いがあるので、問題数が確保できて、数学が得意な生徒には有効であるということ。

数研出版では、「数学旅行」というのが、身の回りの題材を取り上げていて、私も関心が高いな、おもしろいなと思いました。

日本文教出版については、コンピューターで素数を求めるものや、フラクタル図形を描く部分があるということが書いてあったのですけれども、私も見まして、特徴的かなと思いました。

生徒の意見も、数学は1年生から3年生までたくさん出ておりまして、発展的問題や応用問題、それから難易度が高い問題が欲しいと書いている一方、演習問題が多くて、自習もしやすいものとか、レベル分けをしているものとか、先ほど来出ている、生活とつながったようなものがわかりやすいという意見。二極化しているような感じがしています。数学をどんどん進めたいという生徒と、着実に進めたいという生徒とがいるのかなと思います。

また、区の学力に関わる調査の結果を見てみますと、数量や図形についての知識理解とか、数学的な考え方が、若干到達度が低いという状況が毎年見られますし、無回答が多くて、数学的な表現で説明する力が若干弱いのではないかなという分析をしているところでございます。

総合的に見ますと、私としては発展的な問題についても、それから着実な学習という意味でも、大日本図書、学校図書がいいのではないかな。そして、教育出版につきましては、図形の部分が、都の調査からみますと、ページ数を割いておりますので、そういう面では図形の学習にはいいのではないかなと思います。問題数の多さでは大日本図書や学校図書、それから教育出版も啓林館も、日本文教出版についても、問題数は多いのですけれども、問題数が多いほうがいいのかどうかについては、またこれは議論があるところかなと思っております。

私は、最終的には大日本図書、学校図書、東京書籍がよろしいのではないかなと思います。

ほかに各委員からご発言ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは全体的に東京書籍、大日本図書、学校図書が挙げられており、中でも東京書籍というご意見が強いようございますが、数学については、東京書籍でよろしいでしょうか。

それではここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、数学については東京書籍を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、数学については東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

次に、理科について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたしたいと思います。

伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

理科も、各社教科書がすばらしくて、大変迷う部分が多い教科でした。

特に私は東京書籍、大日本図書、学校図書、啓林館について甲乙がつけにくかったのです。一見同じようなのですけれども、よく見ていると、特に地質とか岩石など、啓林館は写真がとてもわかりやすいのですよね。各社きれいな写真が出ているのですけれども、ポイントとなるようなところが、写真で非常によくわかりやすいというのは、啓林館なのかなと思いました。例えば岩石だったら、その岩石がすごくクローズアップされて、大きく出ていて、特徴がはっきりとわかりやすいので、理解がしやすいのではないかなと思いました。

学校図書もバランスがよくて、見やすい。また、何ができるようになったかとか、やってみようとか、発展的なところとか、今回の学習指導要領改訂に伴いまして、子どもたちが自分で思考をつかっていくというか、思考力をつかっていくというか、課題を見つけながら学習していこうということですか、気づきがあって、課題があって、仮説があって、計画があって、実験があって、その方法があってというような、そういう科学的な、物事の研究の進め方のようなものについては、丁寧に書いてあるという特徴が学校図書はあったと思います。

大日本図書は、課題を見つけて探究しようということで、例えば全身を確認するのに必要な鏡の長さを考えようというところから、反射とか光の性質ということを考えるように、学べるようになっていて、身近なことを考えながら、実際の体験と結びつけながら考えていく導入が、すごく上手だなと思いました。力のところではボールを打つ角度とか、場所によってどうなるとか、中学生が部活や生活の中で興味を引きそうな題材を上手に取り入れてやっていて、子どもたちが自然に理科に興味を持てるような、そういう工夫が大日本図書は優れているように思いましたし、そういう点で、トピックの選び方が上手だなと思いました。

また、東京書籍は、判がほかのものと違って斬新な形になっていて、教科書の形が縦長であるために、物事の流れが見やすく、先ほどの、実験の目的、方法、結果、考察みたいなことも1ページでわかるようになっているわかりやすさとか、本当にイラストも含めたレイアウトの美しさということでは、大変優れていると思いました。

私としては甲乙つけがたいのですけれども、理科的なこともわかりやすいということになりますと、今回は東京書籍よりは、写真が美しい啓林館ですとか、トピックのおもしろさ

がある大日本図書とか、学校図書がいいのかなと思います。特に啓林館、大日本図書がいいのかもしれないということを感じました。

以上です。

入野教育長

小林委員、お願いいたします。

小林委員

理科については、今回の改訂の中で、探究する力を養うということが従来にも増して強調されているのではないかと思います。

探究する力をどうやって培っていくのかの一つのポイントとなるのは、問題解決学習を適宜取り入れていくこと。さらには、基本的な概念をどのように理解させていくのかということのを充実させていかなければいけないかと思います。

全体的に見ると、どの教科書も確かに非常によくつくられていると思います。私はその中でも、前回大日本図書を採択していて、この教科書も内容的に網羅され、かつ細かい部分で配慮が行き届いていて、しっかりと学習するには非常に向いていると思います。ただ、近年いわゆる理科離れとか、そういった実態がある中で、どこまで何を求めるかということを考えてときに、私は今回注目したのは、東京書籍の教科書です。

先ほど伊藤委員も触れられていましたけれども、縦型の中で、問題解決学習、そしてそれを通して探究する力を培うという点では、紙面構成が非常にわかりやすい。理科離れの中で、苦手な子どもたちが実験、観察に取り組んでいこうという意欲を高められる教科書ではないかなと、強く感じたところです。

そのほかの、防災の視点も、いわゆる理科学習が現実の生活の中にどう結びつくかということも非常に重要な視点かと思います。そういう点で、東京都の資料を見たりとか、様々検討すると、東京書籍が勝っている状況があると思います。

以上のことから、私は今回は東京書籍が中野区としてはふさわしいのかなと判断をしたところでございます。

以上です。

入野教育長

田中委員、お願いいたします。

田中委員

私も理科の5社については、見ているとそれぞれに楽しくて、よくできているなという

ことをまず感じました。

しかしながらその中で、私がこれはいいかなと思ったのは、大日本図書と東京書籍です。大日本図書は、單元ごとに学習したことと、これから学習することがイラストなどを含めてわかりやすく書かれているというのが非常にいいかなと思いました。特に学習したことでは、例えば小学校の何年生で学んだことということまで書いてある点は、中学に入って新たに学び直すときにわかりやすいかなと思いました。中野では、小学校でも大日本図書を使用しているので、生徒にとっても、あるいは先生にとってもスムーズな学習が進められるのかなということも、評価できると感じました。

もう一つ、東京書籍は1年生の冒頭で、生活の中から課題を見つけ出そうという工夫がとても興味深く、学習指導要領の改訂の趣旨である科学的に探究する学習活動の第一歩としては、非常によくできたつくりではないかなと感じました。ある中学生の1日ということで、朝起きてから学校に行って、給食を食べたり、帰りに道で地層を見て、この地層はどうなのだろうとか、帰ってきてパンケーキをつくる場所で白い砂糖と小麦粉とを、科学的に比べてみようとか、そういったところで、実生活との結びつきが子どもたちの学習意欲を引き起こすのではないかなと感じました。

また、1年生の火山のところで、火山のいろいろな話が出るわけですがけれども、火山があることの恵みと、それから火山があることで災害が起きるといった、生活と結びついた両面から表記されている部分は、とてもいい視点だなと感じました。

ただ、教科書サイズがどうなのかなという心配はありますがけれども、それを踏まえても、今回は東京書籍を推薦したいと思いました。

以上です。

入野教育長

渡邊委員、お願いします。

渡邊委員

ほかの委員がいろいろと話されていますが、内容については理科の教科書ですので、大体ほとんど同じような感じとは思いました。

この中で構成が、東京書籍は問題発見という形から入ってくるという、理科に興味を持たせようという導入に工夫があるのではないかなと非常に感じました。もう一つ、同じように、わかりやすくしているのは学校図書も、CAN-DOリストという形で、どのように学びに向かうかとか、わかりやすく、身につけるかとか、チェックリストになっている。こ

ういったところは非常におもしろい導入の仕方なのかなと思います。やはり理科は好き嫌いが出るのかなというところから、何をやろうとしているのかがわかりやすいことがいいのかなと思います。ほかの社でも当然、そういうことをしていないわけではないのですけれども、導入の方法に特に工夫があるなと思ったのが、東京書籍です。学習の流れを考えるといい感じだと思います。

そして、実験が理科には大切かなということで、同じ題材を見ていくと、教科書の大きさが小さいせいなのか、今まで大日本図書を選んでいたのですけれども、大日本図書は教科書が小さいからか、図や写真、文字がちょっと小さいと感じます。そういった意味では、写真と図がきれいなのは啓林館。これは、結構わかりやすかったかなと思いました。

そういった意味では、学校図書は先ほどはいいと言ったのですけれども、ちょっと説明がわかりにくいのかなとは感じるところです。

そのほか、大日本図書に関しては、レポートの書き方やノートの書き方に関しては、とてもいいのかなと思っています。おもしろかったのは、暮らしの中の理科という形で、先ほどの東京書籍とは違う形で、実生活の中の説明が書かれている。その内容はほかの全ての教科書にもあるのですけれども、扱い方がよかったかな、おもしろいなと思いました。教育出版の「ハローサイエンス」というところも、ついつい目がいって、読むにはおもしろいかなと思いました。そのように全ての教科書がそれぞれ理科に興味を持たせようという工夫はされているのですけれども、やはり東京書籍の工夫が非常に、ほかとは異なるかなと感じました。

小林委員も言われていたように、今回の学習指導要領の改訂の趣旨に合わせると、今までの同じ教科書のつくり方ではなくて、改めてこういう形で、斬新に、本の大きさも変えたのかなと感じました。

その点から考えると、内容的には非常に甲乙つけがたい部分もありますし、どれがと言いかねるところがあるのですけれども、わかりやすさ、導入のおもしろさ、それと斬新な教科書のサイズ、内容と説明の丁寧さ、適度な図表の入れ方を見ますと、東京書籍の教科書がよろしいのではないかなと思ひ、今回はぜひ東京書籍を使うことを推薦したいと思ひます。

以上です。

入野教育長

最後に私の意見を述べたいと思ひます。

理科でございますが、自由研究のページがあるのが東京書籍と大日本図書と調査研究資

料も上がっておりますが、発展的な学習として、いいように思いました。

なぜ学ぶのかというところから冒頭入っている学校図書と教育出版も特徴的かなと思いますし、啓林館については、巻末に理科でよく使う算数と数学というサイエンス資料を載せているのも特徴的でおもしろいかなと思います。子どもたちも楽しく取り組めるかと思っています。

東京書籍については、新しい学習指導要領に伴うダニエル電池の取扱いがいいという調査研究資料も上がっております。本区の学力に関わる調査の結果からは、小中ともに観察実験結果を整理したり、考察したりする活動や科学的語句を使って考えたり、説明したりする力が若干弱いのではないかという考察をしています。そして中野区という土地柄、自然事象についての知識とか理解についても、若干弱いのではないという状況がございます。こういったところを考えますと、東京都の調査から、観察・実験を取り上げている箇所は学校図書、東京書籍が多いということ、自然とか生物とかというところは教育出版、大日本図書、東京書籍が多く取り上げていることが言えますので、この3社に絞られるかなと思います。

子どもたちからの意見で、実験のQRコードがあるといいという意見があったのですが、デジタルコンテンツにおきましては、どの社もよいかと思いますので、私としては巻末のまとめ方とか、それからデジタルコンテンツの中でも一歩内容がいいかなと感じた教育出版と大日本図書、続いて東京書籍の順で推薦したいなと思っております。

ほかに、各委員から発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしますと、全体的に東京書籍、大日本図書というご意見がでましたが、理科については、その中で東京書籍というご意見が強いということでよろしいでしょうか。

それではここでお諮りいたします。

ただいまの協議の結果、理科については東京書籍を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、理科については東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは続きまして、音楽一般について協議を行いたいと思います。

各委員から順に意見をお伺いしたいと思います。

まず小林委員お願いいたします。

小林委員

それでは音楽、まず一般のほうからであります。

教科の目標は、様々ありますけれども、一つは音楽文化と豊かに関わる資質・能力という言葉があります。さらに音楽表現をするために必要な技能。また、音楽に対する感性を豊かにするというごもございませう。

私はこの中で、やはり重要なのは音楽文化と関わる資質・能力であり、さらにそれがある意味では、これは美術もそうだと思ふのですが、子どもたちの生涯学習の扉を開く役割があると思つています。そういう点では、そういう長いスパンで音楽というものを指導していくのか。または短期的なスパンで凝縮して音楽と関わらせるのか。こういう相対したコンセプトがあると思ふのですが、この2社がちょうど今私が申し上げた両極端になつてゐるのではないかなと思つています。

細かいことはいろいろあるのですけれども、全体的に私が感じたのは、やはり生涯学習の扉を開く音楽文化と親しむという視点でいくと、教育出版が勝つてゐると思ふます。しかしながら、音楽科教育ということで、指導のしやすさとか、そうした短期的なスパンでの指導を考えたときには、教育芸術社というものに色分けできるのではないかなと感じました。

東京都の採択資料を見ると、鑑賞の教材数は教育芸術社が多くなつてゐます。ただ、これは後ほどお話ししたいのですが、私は鑑賞に関しては取り上げてゐる教材、いわゆる曲によつて、かなり質が問われてくるのではないかなと思つてゐます。

逆に、コンピューターや教育機器を使用する箇所数とか、発展的な内容を取り上げてゐるという部分、これは教育出版が優れてゐるという状況があります。

幾つか、中身に関して見比べていくと、まず国歌「君が代」の扱いを見てみたいと思ふのです。これは両方とも非常に丁寧に扱つてゐるのですが、実はコンセプトは違ふのです。教育芸術社は、国際的儀礼との関わりでこれを取り扱つてゐるわけで、オリンピックの表彰式との関連を印象づけたりとか、そういうような配置です。一方、教育出版のほうは、正面から国歌「君が代」の意味と、それから国家の繁栄を願ふという、誇りを持って歌いましょうという、そういうようなこと。私はいろいろな捉え方があると思ふのですけれども、国際理解の一環としてこれをどういふふうに見るかというのは、必ずしも音楽の指導でやるべきことなのかと、ちょっと疑問を持つわけです。これは様々な教科、領域の中で行つていく

べきことで、やはり国歌「君が代」というものの本来の趣旨というか、すばらしさというものの、それからその歌に込められた願いを正しく理解させるということが音楽科教育としては重要ではないかと思えます。そういう点では、私は国歌の扱いについては、教育出版が勝っているかなと思いました。

それから、2、3年生の下巻のほうの、両社の後ろのほうに、取り上げている曲に係る歴史的な音楽家が並んでいるのですけれども、例えばモーツアルトと山田検校が同時代の中で生きてきたということが一目瞭然とわかるのは、教育出版のほうです。

それから、取り上げられている作曲家が、実は色濃く特色が出ていると思っているのです。これは多少、個人的な見解もあるかもしれませんが、例えば日本の誇る小澤征爾の扱いなどは、教育出版のほうで丁寧な扱っていると。それに対して、まだ十分な評価が定まっていない坂本龍一を出すとか、バランスがどうなのかなという点では、ちょっと疑問視をいたします。取り上げられている作曲家を見ても、教育出版のほうでオーソドックスで、先々を考えたときに、歴史的な評価も定まっているという点では、安定した人物を載せていると感じます。教育芸術社はやや新しい、ミュージカルとか、ポピュラーとかを取り入れて、現代的に仕上げているのですが、私はむしろ、音楽文化ということに着目したときに、こういう捉え方がどうなのかなと、疑問を持つわけです。

確かに全体的なつくりとか指導のしやすさは教育芸術社のほうが勝っているという見方もあると思いますが、取り上げている教材そのものを見ますと、やはり教育出版の編集方針というのでしょうか、つくりというのは、冒頭申し上げた、子どもたちが生涯にわたって音楽と親しむという観点から見ると、有効であり、私は個人的にというか、一教育委員としては、中野区の子どもたちには、こうしたものを教科書として提供したいなという思いを強く持っています。

以上です。

入野教育長

田中委員、お願いいたします。

田中委員

音楽というのは何を学ぶのかというのは、ある意味わかりにくい教科なのかなという気がしています。

そういう意味で、教育出版は目次で「歌唱」「創作」「鑑賞」というものをしっかりそれぞれ明示してあって、この曲からは何を学ぶのが生徒にとってわかりやすいなという点。

それから、「学びのユニット」というのがあって、その曲を学ぶときの狙いとか、学習に生かせる、比べる曲が示されていたり、あるいは学びのヒントが出ていたり、生徒が学ぶ意識を目的にして、主体的に学べるという意味では、教育出版がいいのかなと思いました。

もう1点、変声期の配慮のところでも、教育出版は変声後の男子の音楽的な役割というのですか。そういったことが書いてあったり、生徒に寄り添うような表現があるところもいいなと思いました。

もう一つ、先ほど小林委員も言われた、生涯教育についても、音楽の広がりを意識するような、例えば中学2年、3年の下の66ページ、67ページですと、音楽を通した教育活動だとか、音楽療法だとか、音楽を学ぶことで、歌うとか、楽器を演奏すること以外にもいろいろな関わり方があるのだということが明確に示されています。こういう点でもいいのかなと思いました。

以上のことから、私は音楽は教育出版がいいのかなと感じたところです。

入野教育長

それでは、休憩いたします。

午前 11 時 29 分休憩

午前 11 時 30 分再開

入野教育長

再開いたします。

渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

音楽の教科書を選択するという点で、学習のしやすさという点につきましては、指導者ではないのでわからないところが多いのですが、田中委員も今申し上げていたように、学習のしやすさというところと言うと、教科書の使い方、教育芸術社のほうと、教育出版の表現の仕方がちょっと違って、教育出版は丸で表現して、その内容を「学びのユニット」という形で表現しているようでは、工夫はあるのですけれども、一般的に見た感じでは、若干わかりにくいような感じはします。

音楽の教科書なので、一番最初のページを開いたときの、教科書への興味ということで考えると、教育出版のほうの方が明らかに写真などの挿入がきれいで、興味がわきやすいように感じます。また、一番最初に、教育芸術社に関しては「君が代」になっていますけれども、一番最後のページに、教育出版は国歌が掲載されています。これ、1、2、3全部を通して、

教育芸術社に関しては、小林委員が言われたように、国際的儀礼という形で、国際社会の問題を入れています。教育出版のほうは、さざれ石の写真が載っています。こちらのほうが、音楽的意味とか、この歌の内容、その歌を理解していこうとか、心情とかということを見ると、やはり、音楽の学習で扱うには教育出版のほうがよいのかなと思います。

教育出版は国歌の前に、全ての教科書に「ふるさと」が載っています。そこの挿絵も、すべて変わっていて、とても情緒のないものがあるなと思いました。

各曲の写真を見ると、教育出版のほうがどちらかというと写真、絵、その他等をうまく差し込んでいて、教科書として、音楽という、芸術的な感性を育てるためには、この教科書のほうがよいと感じました。

よく聞く曲とか、どちらかといえば教育芸術社のほうが知っている曲が多いようには感じます。それは、非常に大切なことで、クラシックを聞きに行ったときも、あまり知らない曲ですと、演奏が立派でもどうしても興味がわからないということがある。そういったところもありますので、よく聞いている曲が選ばれているというのはよいことかなと思います。

そして、教育芸術社の2、3の上下に「蛍の光」と「仰げば尊し」を掲載しているというのは、ある意味とても大切なことなのかなとは感じました。ただ、全体的に見ると、紙面構成のよさと、きれいさと、音楽的配慮と、それと1ページ目を開いたときの音楽への興味というところを見ると、若干、教育出版のほうに私は興味がありましたので、中野区の生徒たちには、どちらかという教育出版の教科書で学習していただければと感じました。

以上です。

入野教育長

伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

2社ではあるのですが、本当にどちらにもいい点があって、なかなか甲乙がつけがたいなと思いました。

大変迷うところなのですが、今回の主体的な学びということにおいては、確かに教育出版のものはどういうふうに学んでいくのかとか、例えば音楽をつくるというような、実際に鑑賞することだけでなく、テーマを持ってそれを表現するとか、実際にやってみるというアクティビティが大変充実しているということが大きな特徴だと思います。

それに対して、教育芸術社のほうは、オーソドックスというか、本当に情感のあるというか、知識とかではなくて、音楽を純粹に楽しむというのでしょうか。音楽の世界に浸るとい

うのでしょうか。そういった方向性が強いのかなと思っています。

ただ、科目の性質を考えたときに、大変迷うのですけれども、どの科目もこれを学ぼう、これをこういうふうに調べよう、こういうふうに、これはこうなのだと、知的な活動というのでしょうか。アクティビティではあるのですけれども、知的な活動が多くなってしまいうちで、音楽は、こうなっているからこうなのだという、分析的に捉えるということではなくて、素朴に音楽とか情緒を味わうということとか、音楽の世界に浸ってみるとか、そういう科目も大事だし、そういう科目なのではないかなと思っています。そういう意味で、私は教育芸術社もいいのではないかなと思いました。ちょっとほっとすると言ったら変なのですけれども、こういうことを学んで、こういう仕組みになっているからこうなのだという理詰めということではなくて、もうちょっと本格的に音楽に触れてみようというような方向性という意味で、教育芸術社がいいかなと思いました。

ただ、1点ちょっと心配だったのは、中野は琴を各学校で弾くということがあると思うのですけれども、教育芸術社のほうは、箏曲についての扱いが鑑賞が重視されていて、教育出版のほうは「箏を弾いてみよう」ということで、「さくらさくら」の箏曲の楽譜が出ていたりするのですが、どっちかという、鑑賞ということが教育芸術社は全体に強いので、実際に琴を弾くといったときにどうかなと思うところもあるのですが、そのかわり、教育芸術社は琴の音の響きを、どういうふうにすると変わっていくのかとか、音楽的な感性というところには訴えかけてくれるので、教育芸術社もいいのではないかと思いました。

以上です。

入野教育長

委員からも様々ご意見が出ていましたとおり、この2社が非常に特徴的な2社です。中学校は皆、専門家が教えておりますので、どちらにしても子どもたちにとっては、充実した授業をやっていただけるかなとは思っております。

教育出版のほうは、先ほど来お話が出てきたように、歌唱と鑑賞と創作と分けると、どちらかという創作的な内容にウエイトを置いているかなという気がしますし、教育芸術社のほうはバランスがよくとれているかなという気がします。中野区の豊かな感性という部分が教育ビジョンの豊かな人間性につながるのではないかなと思いますので、私としては、音楽を愛する心情を育む中で、バランスよく豊かな人間性も育まれていくといいかなという思いがして、若干教育芸術社のほうがいいのかなと思っております。

内容的に見ても、確かに先ほど田中委員がおっしゃったように、変声期の扱いが、教育出

版のほうは2ページということで、手厚いですがけれども、同じように1ページではあるのですがけれども、教育芸術社のほうは、どうして声が出づらいのかとか、変声期に心がけることだとかということもきちっと書いてありますので、そういう意味で、丁寧な指導になっているかなと思いました。

そういうことで、私としては本当に甲乙つけがたいと思います。これらの教科書でどういう授業が展開されるか非常に楽しみなのですけれども、教育芸術社のほうを推したいなと思っております。

それでは会議を休憩いたします。

午前 11 時 42 分休憩

午前 11 時 45 分再開

入野教育長

それでは会議を再開いたします。

ほかに各委員から発言はございますでしょうか。

渡邊委員

今、意見を伺っていて、非常に分かれていたところなのですけれども、私としては、もう一つ大切なことがあります。音楽の授業には、もう一つ、器楽があります。器楽の教科書については、まだそれぞれのご意見をいただいているところなのですが、それを併せて教科書を考えなければならないとなると、若干意見が変わってくるので、その点について、私は先ほどは教育出版と言ったのですけれども、器楽の教科書を併せて考えることになる、やはり少し意見が異なる場所もあります。

そういったところも含めて考慮して、選択をしていただきたいなと考えております。

以上です。

入野教育長

ご意見ありがとうございました。

現在も一般と器楽は同一社のもので採択をしております。今までも中野区は別々のものということもないようでございますので、音楽に関しましては一般だけで採択候補を決めるのではなく、器楽が終わって、併せて決めてまいりたいと思いますが、そのようにしてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

それでは、音楽一般につきましては、後ほどの器楽と併せて行ってまいりたいと思います。

それでは、本日の協議はこれまでにしたいと思います。

よろしいでしょうか。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして教育委員会第3回臨時会を閉じます。

ありがとうございました。

午前 11 時 48 分閉会